

第1学年国語科学習指導案

1 単元・題材 表現を見つめる「感じたことを文章にしよう」 (光村図書 1年)

2 目標

- 多様な材料や対象に広く目を向け、興味をもった作品を選んで鑑賞することができる。
(国語への関心・意欲・態度)
- ◎ 観点を決めて鑑賞し、根拠を明確にして読み手にわかりやすい鑑賞文を書くことができる。
(書く能力)
- 書いた文章を互いに読み合い、作品のとらえ方や表現のしかたについて意見を述べるができる。
(書く能力)
- 作品の魅力を語る語彙を増やし、表現を工夫することができる。
(言語についての知識・理解・技能)

3 指導観

- 本単元は、中学校学習指導要領国語第1学年「B 書くこと」の指導事項(1)「ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを明確にして書くこと。」や「エ 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすくわかりやすい文章にすること。」をねらいとして設定されている。そのねらいを達成するため、「B 書くこと」の(2)「ア 関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと。」が言語活動として示されている。

「鑑賞」とは、対象となる作品の表現のしかたや作品に込められた作者の意図などについて、様々な角度から光を当て、そのよさを見極めたり、味わったりすることである。みずみずしい感性をもつ中学1年生にとって、作品から感じ取った魅力を鑑賞文のかたちで表し、他者から共感を得るという経験は、自分の感性をさらに磨くことや他者との言葉を介した豊かな意見交換につながる効果的な学習活動と成り得るだろう。また、読み取ったこと、感じたことを表す言葉を数多く獲得し、語彙を増やすことで、例えば、詩歌の鑑賞、音楽科や美術科における鑑賞の学習など、多方面にわたる表現活動に活かすことができると考える。

- 事前アンケートによると、3割の生徒が「書く学習が好き」と答えており、その生徒たちは「書きたいことがたくさんあり、自分の思っていることや考えていることを表現したい」と感じていることがわかった。一方、「書く学習が嫌い」と答えた生徒は、その理由として「どう書けばよいかわからない、書きたいことが思い浮かばない、書いたものがどう評価されるかわからない」といったことを挙げていた。しかし、どちらの生徒も「文章をうまく書きたい」、「うまく書くためには、内容の工夫、自分の考えの整理、下書きやメモの活用、他者の文章での学びが大事だ」と感じている点は共通していた。また、文章を書くときに読み手を意識している生徒は6割であることもわかった。

本学級の生徒は、小学6年次に、『鳥獣戯画』を読む、「この絵、私はこう見る」という二つの文章を通して、美術作品の鑑賞について学習している。さらに、1学期には、詩を読んで鑑賞文を書き、発表する学習を行っている。しかし、観点を決めて鑑賞し、作品の魅力を伝えるという点ではまだ深まりが足りない点が見られた。また、語彙力が不足しているため、感じたことを豊かに表現することが難しかったり、根拠がはっきりしていないために自分の意見がうまく伝えられなかったりする生徒もいる。

○ そこで、指導にあたっては、相手を意識して、根拠を明確にわかりやすく伝える鑑賞文を書くことに取り組ませたい。まず、導入段階で、教科書に掲載されている五つの美術作品の題名をつけるといった活動を取り入れ、作品の見方や感じ方にはそれぞれの感性の違いが表れることを実感させたい。そして、「鑑賞文」とは何か、また、自分の感性を相手に伝えるためには、観点を決めて根拠を明確に伝えなければならないことを理解させたい。そのうえで「ムーラン・ド・ラ・ギャレット」の絵について、観点を決めて鑑賞する練習をさせたい。

第2時では、前時に学んだ内容を踏まえながら、自分が選んだ作品について観点を決めて鑑賞する学習に取り組ませたい。まず、作品の第一印象をもとに、自分の感動の中心をひと言で表現させ、それを題名にすることから始めたい。次に、作品から感じ取れることや読み取れることを付箋紙に書き出し、それを整理して、作品の魅力を伝えるための根拠を絞り込ませたい。自分の感動はどこからくるのか、作品の何に魅力を感じるのかを、観点をもとに分析することで、自ずと書きたい内容が明確になり、文章の構成を考えやすくなると思われる。また、個別に記入した付箋紙は、グループでの意見交換や鑑賞文の構成の見直しの際にも活用させたい。

第3時では、前時で考えた文章の構成をもとに、400字程度の鑑賞文を書かせたい。その際、相手意識をもたせ、相手にわかりやすく作品の魅力を伝えるには、観点にそって、①自分が感じ取った作品の魅力、②鑑賞する観点、③作品の魅力を説明する根拠の三つのポイントを押さえて鑑賞文を書かせたい。そうすることで自分が感じた魅力をわかりやすく相手に伝えることができる。生徒の学びの助けとしては、鑑賞文の例の提示や、グループでの意見交換で出てきた言葉の活用といった手立てが有効であると考えられる。

第4時では、まず、同じ作品を選んだグループでお互いの鑑賞文を読み合い、作品のとらえ方や表現のしかたについて意見交換させたい。次に、それぞれが違う作品を選んだグループを作り、同じように鑑賞文を読み合い、意見交換させたい。友達の鑑賞文を読み合うことで、自分が選んだもの以外の作品の魅力に気づき、一人一人のものの見方や感じ方が広がり、作品の魅力を語る語彙を蓄えることができると考える。また、意見交換の際には、鑑賞文を書くときに示した①～③の三つのポイントについて評価し合い、互いの文章のよい点を学び合ったり、気付いた点について助言し合ったりさせたい。他者との豊かな意見交換により得た学びによって、自分の表現をよりよいものに高め、感性をさらに磨くことにつなげていきたい。そして、その学びを、他の単元・題材や他教科においても応用できるようにしていきたい。

4 指導計画と評価計画（全4時間）

時間	学習内容及び学習活動 「蓄えたい学習用語・語彙」 を生かした学習活動の場面	国語への関心・意欲 ・態度	書く能力	言語についての知識 ・理解・技能
1	○本題材の学習内容を知り、見通しをもつ。 ○鑑賞文について理解し、作品を鑑賞する方法を学ぶ。	○鑑賞文に関心を持ち、作品の魅力について考えようとしている。〈観察〉学ぶ。		

2 (本時)	○観点を決めて作品を鑑賞し、感じたことや読み取ったことを伝え合う。 観点を決め、付箋紙を用いて分析し、「感じたこと」を伝え合う。	○作品から感じ取れることや読み取れることを、観点ごとに積極的に書く。 (観察)	○観点を決めて作品を鑑賞し、感じたことや読み取ったことを伝え合うことができる。 (ワークシート)	
3	○鑑賞文の構成を考える。 ○根拠を明確にして、読み手にわかりやすい鑑賞文を書く。	○意欲的に鑑賞文を書くようにしている。 (観察)	○どの観点をどこに書くか、文章の構成を考えることができる。 (ワークシート) ○根拠を明確に、構成を工夫してその魅力を伝える文章を書くことができる。 (下書き)	○読み手に伝わるような鑑賞文にするために、語句や表現を工夫して書くことができる。 (下書き)
4	○書いた鑑賞文を読み合い、互いの見方や感じ方について意見を述べる。	○意欲的に自分の考えを述べたり、他者の意見を聞こうとしたりしている。 (観察)	○他者の助言をもとに、自分の表現の参考にすることができる。 (清書)	

5 本時の目標

- 観点を決めて作品を鑑賞し、感じたことや読み取ったことを伝え合うことができる。(書く能力)

6 蓄えたい学習用語・蓄えたい語彙

蓄えたい学習用語	蓄えたい語彙
鑑賞文 観点 根拠 構成 読み手 推敲	印象 魅力

7 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	評価の視点
導入	1 これまでの学習内容を確認する。 2 本時の目標を確認する。 観点を決めて鑑賞し、「感じたこと」を伝え合おう。	○「蓄えたい学習用語」をもとに前時を振り返らせる。 ○学習の見通しをもたせる。	
展開	3 自分で考えた作品名を発表する。	○作品名を決めた理由も発表させ、それぞれの感性の違いに気付かせる。	

展 開	4 鑑賞するための観点を決める。	○前時の鑑賞の練習で考えた観点を参考にし、三つに絞る。	I
	5 観点ごとに作品から感じたこと、読み取ったことを付箋紙に書き出す。	○観点ごとに色の違う付箋紙に書かせる。 ○絵を見て気付いたこと、感じたことをなるべくたくさん書かせる。 ○一つの観点について二つ以上の材料を目標に書かせる。	
	6 グループをつくり、付箋紙に書き出したことを整理する。 7 文章の組み立てを考える。	○同じ作品を選んだグループで、観点ごとに感じ取ったこと、読み取ったことを比べさせる。 ○読み手を意識して、作品の魅力が中心となるよう構成を考えさせ、次時の活動に取り組みやすくさせる。	
ま と め	8 本時の学習を振り返る。	○観点を決めて鑑賞し、根拠を絞り込むことで、作品の魅力が伝わる文章になるということを確認させる。	
	9 次時の学習内容を知る。	○次時は、実際に鑑賞文を書くことを知らせる。	

8 評価の視点と評価項目

評価の視点	評価項目〈☆評価方法〉
I 観点を決めて作品を鑑賞し、感じたことや読み取ったことを伝え合うことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 感じたことや読み取ったことを、観点ごとに付箋紙に書き出し、伝え合うことができる。 〈☆ワークシート・観察〉

9 板書計画

推敲 鑑賞文 観点 根拠 構成 読み手	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">蓄えたい学習用語</div> ○ 想像したこと ○ 作者の心情や意図 ○ 音 ○ 色彩 ○ 対象や素材 ○ 構成 ○ 印象	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">観点</div> 作品の題名 ← 作品を見た最初の印象 作品の魅力	本時の目標 観点を決めて鑑賞し、「感じたこと」を伝え合おう。	感じたことを文章にしよう 読み手にわかりやすい鑑賞文を書こう。
------------------------------------	---	---	-----------------------------------	------------------------------------